The Sustainability of the Pension System: Defined Contribution and Defined Benefit*

安岡 匡也†

平成 21 年 4 月 23 日

概 要

本稿は、出生率内生化モデルを用いて、年金制度の持続可能性について考察を行う。本稿では 2 つの年金制度を考える。1 つは若年世代に対する保険料率を固定させて老年世代への年金支払いが世代人口比率などにより変化する確定拠出型年金制度であり、もう 1 つは老年世代に対する年金支払いを固定して、世代人口比率などにより若年世代に対する保険料率が可変的に変換する確定給付型年金制度である。確定拠出型年金制度では、出生率の動学が児童手当や保険料率の大きさにより変化することを明らかにした。また、確定給付型年金制度では、定常状態均衡が最大 3 つ存在することを明らかにした。児童手当が出生率に与える影響は年金制度により異なり、確定拠出型年金制度では、児童手当をある程度与えなければ、出生率が時間を通じて減少し続け、年金制度を維持できないことを明らかにした。

Keywords:出生率、確定給付型年金、確定拠出型年金

JEL Classifications:J13, G23

*本稿は科学研究費補助金 (若手研究 B No.21730159) の補助を受けて作成されたものです。
†北九州市立大学経済学部 E-mail: yasuoka@kitakyu-u.ac.jp